

## 長寿安心プラン2018骨子(案)に対する市民の意見等と金沢市の考え方について

- 1 募集期間  
平成29年12月25日(月)から平成30年1月23日(火)まで
- 2 募集方法  
メール、郵便、ファクシミリ、又は窓口へ持参
- 3 意見
  - ・意見者数 4名
  - ・意見数 12件

番号	ご意見の内容	金沢市の考え方
<b>1 計画の基本理念</b>		
1	計画の基本理念の中で、「本市の地域性を踏まえ」と記載されていますが、どんな地域性なのか。	本市には、古くから培われてきた豊かなコミュニティの土壌が存在しています。また、医療機関や介護保険施設等の社会資源の整備が進んでいる状況にあります。長寿安心プラン2018においては、こうした地域性を踏まえ、地域の医療・介護に係る社会資源を有効に活用するとともに、コミュニティにおける共助の力を最大限に発揮できるような、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。
2	「基本理念2 住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり」の中の、「可能な限り住み慣れた地域で」に「安心」を入れた方が良いのではないかと。	高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためには、「安全・安心」であることが前提となります。このため、基本理念2について、「住み慣れた地域で安全・安心に暮らし続けられるまちづくり」に修正します。
3	基本理念3では「古くから培われてきた豊かな地域コミュニティの土壌が存在」することのことが、どのようなことを指しているのか。金沢市の考え方として古くからのものにとらわれていると思います。古くを大切にしながら、新しいことを取り入れることが必要だと思ふ。	本市では、約7割の世帯が加入する町会や地区社会福祉協議会、善隣館、民生委員児童委員、公民館など地域住民により組織される団体が、活発な地域活動を行ってきました。長寿安心プラン2018においては、これら従来からの地域コミュニティの共助の力に加えて、ボランティアやコミュニティビジネスなどの多様な担い手により地域課題に対応していくこととしています。
<b>2 施策目標に対する具体的取組</b>		
<b>(2) 介護サービス・在宅医療の提供体制の充実</b>		
4	重度化防止について、現在のリハビリサービスの充実と多職種連携が大切だと思われる。 以前から言われているように自立に向けた介助方法、介助量軽減に向けた介助方法がリハ専門職と連携して行われているのかを再考しなければいけないと思ふ。	高齢者が要介護状態となることの予防や要介護状態の重度化防止を目的とした介護予防については、機能回復訓練などの高齢者本人へのアプローチだけではなく、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めたバランスのとれた取組を進めていくことが重要です。このため、長寿安心プラン2018においても、地域における住民運営の通いの場等を活用し、リハビリテーション専門職等の一定の関与の下で、介護予防の取組を展開していくなど、専門職と連携した事業を推進していくこととしています。

<b>(3) 生活支援・介護予防の提供体制の拡充</b>		
5	<p>退院支援を行う病院や、在宅の高齢者を支援する地域包括支援センターや居宅介護支援事業者が、今、一番困っている家族構成は、高齢者一人と子供一人の世帯である。とても多くなっており、何かの大きなイベント（徘徊・万引き・緊急入院など）で、この世帯がとんでもない状況（子供が閉じこもりで親の年金を使っている、介護を放棄しているなど）になっていることが明らかになる。そのため、このような世帯に対して、早期からの見守り等の支援や、問題が起こったときにどのように対応していくか検討する必要がある。</p>	<p>本市では、地域包括支援センターによる訪問や民生委員児童委員、まちぐるみ福祉活動推進員による見守り活動と連携することにより、日常生活において支援を必要とする高齢者や社会的に孤立した状況にある高齢者の早期発見、高齢者虐待の未然防止に努めています。さらに、虐待への対応が必要な場合には、地域ケア会議（※）を開催して支援方針を検討し、高齢者の人権保護に努めています。長寿安心プラン2018においても、引き続き、これらの取組の強化を図っていくこととしています。</p> <p>※地域ケア会議：地域包括ケアシステムの実現に向けた重要な手段と位置づけられており、日常生活圏域（中学校区）単位で地域団体や地域包括支援センター等が社会資源の整理や地域課題の抽出などを行うほか、市全域の地域包括支援センター連絡会で意見を集約し、介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげていく役割が期待されています。</p>
6	<p>介護予防をしたいと考えているが介護保険の対象とならない方は、自身の地域に取り残されており、自分の地域で何を利用できるのか、どこに尋ねたらいいのかわからない高齢者の方もいる。生活支援コーディネーターなどの配置をしても、必要としている人がどこに助けを求めれば良いのかが高齢者にとっても支援者にとってもわかりやすいような窓口や表示などが必要であると思う。窓口が地域の中に入り込むシステムがあることを望む。</p>	<p>高齢者が医療や介護が必要になる前に、介護予防や医療・介護サービスの内容を理解しておくことがその後の安心な生活につながることから、長寿安心プラン2018においても、引き続き、パンフレットやホームページを利用してその情報を提供していくとともに、高齢者の相談窓口として市内19の日常生活圏域毎に設置している地域包括支援センターの機能や役割についても、より一層の周知に努めていきます。</p>
7	<p>コミュニティビジネスなども、元気な高齢者が実施するなど、相互に助け合う仕組みや同世代の輪を広げていくような仕組みを、金沢市の地域性を活用しながら実施していただけないか。金沢の方の特徴として、やはり自身の地域の方に対しての愛着が強いと思うので、地域の中でそのような人がいた方が関わりやすいのではないかと。</p>	<p>長寿安心プラン2018においては、新たに配置する生活支援コーディネーターを中心に、地域の関係団体との連携を図りながら、身近な地域における高齢者の社会参加の促進に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、高齢化の進展に伴う地域課題をビジネスの手法で解決するコミュニティビジネスについては、引き続き、起業から定着までを支援していきます。</p>
8	<p>介護予防について、リハビリ専門職が関わる場合は、要支援又は高齢者の方が気軽に集える場へリハビリ専門職が関わっていけるような仕組み作りが必要と考える。また、地域の課題分析に関しても関与できるのではないかと考える。</p>	<p>本市では、地域の要望に応じて、高齢者の集いの場へリハビリテーション専門職の講師派遣を行う事業に取り組んでいます。今後、介護予防事業におけるリハビリテーション専門職の需要は高まるものと見込まれますので、長寿安心プラン2018においても、専門職との協働を推進していきたいと考えています。</p>

9	<p>リハ専門職の確保について、今後、多くの経験豊富なリハ専門職が定年を迎えてきますので嘱託やパート、ボランティアとして確保できるのではないかと。</p> <p>高齢者が安心して暮らしていけるような地域社会が作られることを期待している。</p>	<p>地域における介護予防の取組等に参加していただけるリハビリテーション専門職の確保については、各リハビリテーション専門職の職能団体と協力して取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p><b>(6) 高齢者の社会参加の促進</b></p>		
10	<p>社会参加は在宅療養されている方にとっても重要課題である。</p> <p>要介護になられても外出支援や色々な活動に参加できるよう支援する組織づくりが重要であり、その中にリハ専門職が在籍できるようにすることが大切だと思う。</p>	<p>長寿安心プラン2018においては、心身の状態や生活環境に応じて、全ての高齢者が生きがいを持って暮らしていけるよう、多様な社会参加の促進に取り組んでいくこととしています。</p> <p>要介護状態にある方の社会参加のあり方については、専門職の方の御意見を伺いながら検討を進めていきたいと考えています。</p>
<p><b>3 その他の意見</b></p>		
11	<p>私は医療に携わって働いており、一度は聞いたことのある単語がほとんどであったが、今回の案を理解するまでに何度も読み込む必要があった。</p> <p>医療に携わったことのない方や高齢者の方にとって、内容を理解するまでに時間がかかり、内容を十分に理解できないのではないかと。</p> <p>また、具体的な案として挙げられている、市民がどのようなサービスを受けられ、どのようなことを努力していく必要があるのかわからなかった。</p>	<p>高齢者施策が複雑で多様化する中、市民へ分かりやすく情報を伝えることにより、市民参加を促進していくことがますます重要になっています。このため、プラン本編の記載に当たっては、図や表などを盛り込むなど、分かりやすい表現に努めていきたいと考えています。</p>
12	<p>注釈はいくつかあるが、関心がある方でも政策内容を理解することが難しいと思う。また、具体的取組も推進、促進という言葉で片付けられているため具体性に欠けると思う。そこに一部でもいいので例などがあると少し分かりやすくなるのではないかと考えた。</p>	